

## 令和元年度業務実績に関する評価（案）の概要

## 1 業務実績（税込）

（単位：百万円）

	H30年度（実績）A	R元年度（実績）B	B - A
経常収益	46,385	47,722	1,337
医業収益	38,580	39,778	1,198
経常費用	45,386	47,291	1,905
医業費用	44,383	46,301	1,918
経常収支	999	431	▲568
経常収支比率	102.2%	100.9%	▲1.3
当期純損益	738	302	▲436

## 2 業務実績全体にかかる総合的な評定（要旨）

医療面	県立病院としての使命を引き続き担い、総合病院における無菌病棟の整備や先端医学棟での放射線治療機器の拡充など、 <u>医療の質の更なる向上とそのための体制づくりへの努力</u> が引き続き認められる
経営面	手術件数や外来化学療法件数の増加、経費削減努力等により、 <u>経常収支においては11年連続で黒字決算を達成</u>
総合的評定	<u>医療面・経営面の双方で、中期目標の達成に向けての努力と着実な進展がみられる</u>

## 3 機構の業務実績・自己評価

## （1）機構自己評価（機構が行動計画として設定した全120項目）

区分	暫定評価	本評価	備考
S：十分な取組、顕著な成果	2	3	<A→S> 【101】災害時における医療救護（心）
A：十分な取組、成果あり	109	104	<A→B> 【17】リハビリテーション（心） 【40】入院患者数・外来患者数（心） 【34】ダヴィンチ使用手術件数（総） 【61】医師数・看護師数【96】公開講座数 <未→A> 【8】患者満足度
B：十分な取組	7	13	<未→B> 【113】業務改善推進運動
C：取組不十分	0	0	
未評価（※暫定評価時データ集計中）	2	0	
計	120	120	

## （2）令和元年度数値目標の達成状況（機構が中期計画・令和元年度計画において指標設定）

区分	項目数	備考
目標達成	16	
目標未達成	10	【9・10・11】紹介率・逆紹介率(3病院)、【25・40】入院患者数・外来患者数(総、心)、【34】ダヴィンチ使用手術件数(総)、【53】小児がん登録件数(子)、【61】医師数・看護師数【96】公開講座数、【113】業務改善運動推進制度実績件数
計	26	

4 県評価（全 120 項目のうち、県が数値目標項目など 70 項目を「重点項目」として設定）

区分	暫定評価	本評価	備考
☆：良好で特に着目する状況	9	10	<○→☆> 【102】 災害時の医療救護 <☆→○> 【61】 医師数・看護師数 <新> 【15】 新型コロナウイルス感染症対策
○：良好な状況	58	58	
△：より一層の取組を期待	1	2	<新> 【17】 リハビリテーション（心）
▼：取組改善を強く要望	0	0	
計	68	70	

5 実施状況の調査・分析

(1) 項目別要旨

県民に対して提供するサービスの他の業務の質の向上	医療の提供	総合病院での放射線治療の拡充、遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度の基幹施設指定、こども病院での小児がんに対する集学的治療への取組やAYA世代がん患者への支援拡充等、 <u>医療の質の更なる向上が図られている</u>
	医療従事者の確保及び質の向上	総合病院先端医学棟のメディカルスキルアップセンターにおいては、充実した研修体制が整備されており、こども病院の院内保育所の供用開始等、 <u>就労環境の向上も図られている</u>
	医療に関する調査及び研究	総合病院のリサーチサポートセンターにおける客員研究員の増員や慶應義塾大学大学院との連携・協力協定締結等の研究支援体制の充実、乳幼児難聴支援に関する研究の継続的な取組等により、 <u>本県の医療水準の向上に寄与している</u>
	医療に関する地域への支援	新専門医制度のもと専攻医の確保に努め、県内医療機関への医師派遣、高度医療機器の共同利用、医療観察法の鑑定医としての公的機関からの鑑定要請協力などを通じて、 <u>地域医療提供体制維持に貢献している</u>
	災害等における医療救護	3病院ともに県内の医療救護活動の拠点として、体制の充実・強化が図られており、こころの医療センターにおける、新型コロナウイルス感染症関連のスクリーニング業務へDPAT派遣など、 <u>災害対応の基幹的役割を果たしている</u>
業務運営の改善及び効率化	薬品・診療材料の適正な調達・在庫管理や業務改善運動の推進等、 <u>業務運営の効率化に継続して取り組んでいる</u>	

(2) 項目別業務実績評価抜粋（県評価のうち☆及び△の項目を抽出）

※下線部は暫定評価からの修正・追加事項

No.	機構業務実績	県評価 (暫定→本)	県評価	機構評価 (暫定→本)
30	がん手術・放射線治療、がんゲノム医療提供体制強化	☆→☆	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内がん手術症例の集約化、先端医学棟における放射線治療装置の効率的運用を実現</li> <li>日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度の基幹施設に指定</li> </ul>	A→A

No.	機構業務実績	県評価 (暫定→本)	県評価	機構評価 (暫定→本)
32	がん緩和ケア体制の充実 (H30: 812件→R元: 5,249件)	☆→☆	・患者の身体・精神両面の症状軽減に向けた医療を提供、 <b>精神科医師の着任により緩和ケアチームが活発化</b> ・ <u>高度な放射線治療や緩和ケア提供体制を備えた地域がん診療連携拠点病院（高度型）に指定</u>	S→S
47	医療観察法の地域病院向け初任者研修開催（4病院参加）	☆→☆	・退院後の地域社会での医療提供等に向けた、 <b>法理解の裾野拡大</b> に向けて医療観察法初任者研修を初開催	A→A
53	こども小児がん登録件数 (目標: 60件→実績 56件)	☆→☆	・小児がん拠点病院としての <b>小児がん相談室の設置、AYA世代支援</b> に向けた研修会開催、ハンドブック作成などの県内ネットワーク構築を評価	B→B
14	総合へのこころ精神科医師の着任	☆→☆	・ <b>精神科リエゾンチーム、認知症ケアチーム、緩和ケアチーム</b> に参画、診療報酬加算算定件数増に大きく貢献	A→A
15	新型コロナウイルス感染症対策	☆ (新設)	・ <u>病床の確保等、県内医療提供体制確保への貢献</u> ・ <u>急を要さない診療の延期等の感染拡大防止対策</u>	A→A
22	こども発達小児科の常勤医1人増員、県と連携した東部地域医師に対する研修の実施 (4人・年12回)	☆→☆	・医師確保の成果もあり、 <u>初診待ちが、以前の3ヶ月～4ヶ月→1ヶ月～2ヶ月へ改善</u> ・ <b>県発達障害者支援センターとの連携強化</b> 、専門医師の確保、地域と連携した早期診断・早期療育等の取組を期待	A→A
76	こども院内保育所の運用開始	☆→☆	・令和元年度供用開始し、定員30人から80人に増員 ・ <b>対象年齢引上げ、二重保育、病後児保育等</b> にも新たに 対応し、職員の就労環境向上に寄与	A→A
77	リサーチサポートセンターの臨床研究数の増加 (H30: 332件→R1: 376件)	☆→☆	・臨床研究数や客員研究員が増加、文部科学省科学研究費など、研究体制強化 ・ <b>慶應義塾大学大学院医学研究科と連携・協力協定締結</b> 今後も医療水準の向上と、魅力的な臨床研究環境による医師確保への貢献を期待	S→S
	きこえとことばのセンターの厚生労働省表彰の受賞		・全国に先駆けた <b>早期新生児聴覚検査体制</b> の県内整備への貢献と検査実施後の早期治療支援等の取組努力の継続により、 <b>国表彰を受賞</b>	
102	こころ災害時医療救護活動拠点としての体制整備と取組の充実	○→☆	・台風15号の被害地域や <b>新型コロナウイルス感染症関連のスクリーニング業務へのDPAT派遣</b> ・ <b>災害拠点精神科病院の指定</b> に向けた、災害時の医療救護体制の更なる強化を期待	A→S
17	こころリハビリテーション件数の減少 (H30: 11,517件→R元: 8,929件)	△ (新設)	・ <b>精神疾患患者の社会復帰と在宅医療の支援について、デイケアの新規利用者増加や訪問看護の拡充に向けた更なる取組が必要である</b>	A→B
67	こども本館リニューアル工事によるラーニングセンターの使用休止	△→△	・施設改修計画と整合を図りつつも、 <b>院内研修のセンター集約</b> により研修環境を改善する <b>運営検討部会</b> の方向性を継続できるよう、運用・検討を要望	B→B